



今月のおすすめ記事

今年で11回目！
マンガ・アニメの祭典
「京まふ」を開催

8・9面に掲載



タレントのつるの剛士さんと
門川市長が子育てについて
対談！

5面に掲載



市民の皆さん！

上の記事も面白いですが、
まずは3年度の決算です！
財政危機の克服に向け着実に前進！
大切な税金の使い方についても説明
していきますので、ぜひご覧ください！

市職員
京都京



第965号

令和4年
(2022年)
9月
1日

市民しんぶん

今月のプレゼント
幸せのつむぎパイ
～りんご～



7面

●新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、
掲載内容は変更になる場合があります。
●掲載記事・施設の情報は、HPでも閲覧
できます。

医療機関や市公共施設などで新型コロナワクチン接種を実施中

ワクチン接種後、時間の経過とともに感染・重症化予防の効果が低下します。
前回の接種から5カ月以上経過し、かつ3回目、4回目の接種がまだの方は、接種をご検討ください。



詳細はこちら

市民の命と暮らしを守る 財政 3年度決算概況

計画を上回って収支を改善!

3年度決算を受けて

まず市民の皆様にお伝えしたいこと

① 6年度の公債償還基金の枯渇を回避しました
市では、市民1人当たりの市税収入が他都市に比べて少なく、また、地方交付税が削減され、厳しい状況の中、国の基準よりも充実した市民サービスを実施してきました。

しかし…
コロナ禍による税収減などが影響し、何らかの手を打たなければ6年度に公債償還基金(将来の借金返済の積立金)が枯渇し、市民サービスが大幅に低下する危機に直面。

そこで…

現在
3年度に行財政改革計画を策定。基金の枯渇を回避し、7年度に公債償還基金残高1千億円以上の確保を目標に。業務の委託化・効率化による職員数の削減や市税徴収率の向上など改革に取り組んだ結果、3年度決算と4年度予算で計画を447億円上回って収支を改善。7年度の基金残高は1千400億円以上確保できる見込み。

これから
② 今後も、京都ならではの改革と成長を推進します
改革の目的は、福祉・子育て支援・教育・文化など、京都の魅力や未来に継承・発展させること。今ある取り組みを単に廃止するのではなく、敬老乗車証制度のように施策の理念とサービスネットワークを守りつつ改革を推進。また、京都の強みを生かした成長戦略にも取り組んでいきます。

[歳入総額] 1兆519億円

[歳出総額] 1兆589億円

[翌年度への繰越財源] 15億円

85億円の赤字

収支の状況

一般会計

市では、3年度に行財政改革計画を策定し、持続可能な行財政の確立を目指しています。この度、同計画策定後、初めての決算がまとまりましたので、その内容を紹介します。
※金額は概数

問合せ 財政室 ☎222・32888 FAX 222・32883

ポイント

① 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と市民生活・京都経済の下支えなどに取り組み、歳入・歳出の規模は2年度に次ぐ過去2番目の大きさに。

② 行財政改革による財源の捻出や一般財源収入の増加などにより、収支は2年度から87億円改善したものの、いまだ85億円の赤字の状態。
※特別の財源対策(85億円)後の収支は4億円の黒字。

ひとくちメモ 特別の財源対策

市税や地方交付税など通常の収入だけでは必要な支出を賄えない場合に活用する財源。市では、次の対策を実施。

- 市債(行財政改革推進債・調整債)の発行
- 公債償還基金(将来の借金返済のための積立金)の取り崩し
- 一方で、これらの対策は負担を将来に先送りすることになるため、同財源の圧縮に努めています(2年度169億円→3年度89億円)。

歳入の状況

市税・府税交付金などが増加。また、市の要望を踏まえた国の財政措置の拡充もあり、一般財源収入は4千674億円に(前年度比285億円増)。

● 市税収入の状況

市民生活・京都経済の下支えなどに取り組んだ結果、個人市民税等を微減に抑える一方で、法人市民税などが増加し3千19億円に(前年度比60億円増)。

主な税目の増減

● 個人市民税 1千152億円 (前年度比20億円減)

● 法人市民税 339億円 (前年度比72億円増)

● 固定資産税 1千82億円 (前年度比5億円減)



● 夏休み明けは、通勤通学に乗じた痴漢や盗撮が多発する恐れがあります。被害を見たらすぐに通報を!

歳出の状況

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と京都経済・市民生活の下支えのために約3千億円の対策を実施。また、子育て支援や教育活動の充実などにも取り組み、歳出は1兆589億円に（前年度比157億円減）。

●性質別に見た歳出（主なもの）

項目	3年度 (前年度比)	主な増減理由
給与費	1千583億円 (45億円減)	職員数削減 9億円減 給与減額 26億円減
扶助費	2千578億円 (402億円増)	住民税非課税世帯などに対する臨時特別給付金 183億円増 子育て世帯特別給付金 155億円増
物件費 (※)	3千810億円 (698億円減)	中小企業融資制度 預託金 422億円増 特別定額給付金 1千415億円減
投資的 経費	637億円 (56億円減)	京都奏和高校整備の完了 25億円減 北消防署移転整備の完了 17億円減

※給与費や扶助費などの項目を除いた経費

給与減額で捻出した財源は、災害など緊急の事態に機動的に対応するための財源として基金に積み立てました。



／主な使い道はこちら／

保健衛生費

719億円

●新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の体制を強化し、3回目の接種率は8月4日時点で約6割に
●新型コロナウイルス感染症の無症状者や軽症患者の容態変化などの相談を受け付け、必要な医療につなぐ「市新型コロナウイルス陽性者臨時フォローアップセンター」を開設

産業経済費

2千357億円

●コロナ禍などの影響により業況が悪化した中小企業の資金繰りを支援するため、中小企業に融資を行う金融機関へ、年度末に全額返戻される預託金を預け入れ
●コロナ禍の影響により、売上高が減少しているもの、時短要請等協力金の対象とならなかつた事業者に対し、補助金・応援金を支給（約1万8千件）

社会福祉費

3千517億円

●保育所等の整備助成、医療的ケア児の受け入れ支援などに取り組み、保育所等で9年連続、学童クラブ事業で11年連続の待機児童ゼロを達成

都市建設費

767億円

●駐輪場整備や放置自転車の防止啓発・撤去の強化などを実施。この10年で放置自転車は9割以上減少



公営企業会計

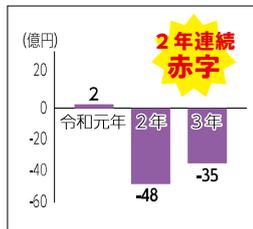
市バス・地下鉄事業

ポイント

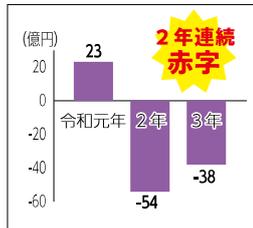
①お客様数はコロナ禍の影響を受け大幅に減少した2年度より増加したものの、コロナ禍前の元年度と比べると、1日当たり約10万人少なく、経営は依然として厳しい状況。
②経常損益は市バス・地下鉄ともに2年連続の赤字。地下鉄は、依然として多額の負債を抱えた状況であり、2年度に陥った経営健全化団体からの脱却に至らず。

	元年度	2年度	3年度
市バス	35万7千人	24万8千人	26万8千人
地下鉄	40万人	26万7千人	29万5千人

【市バス経常損益の推移】



【地下鉄経常損益の推移】



上下水道事業

ポイント

①コロナの影響による使用水量の減少により、経営計画で見込んだ収入を大幅に下回る状況（水道11億円減、下水道15億円減）。
②そのため配水管更新などに使用する財源の確保額は、経営計画で掲げた目標を下回る厳しい状況（水道2億円減、下水道4億円減）。
③厳しい状況にあっても、市民生活を支える水道・下水道を守るため、老朽化した配水管の更新や雨水幹線の整備などは着実に推進

3年度の決算概況の詳細についてはHPで紹介しています。ぜひご覧ください。

